

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第22号

## ななえ古写真物語

VOL. 22

### 幻の展望塔

～大沼展望塔～

昭和6～20年ごろ

大沼国定公園駐車場付近



現在、大沼公園の周辺は赤や黄色に染まり、美しい景観が更に彩られる季節になりました。四季折々の美しさを堪能できる大沼の中でも、個人的に最も好きな季節であり、明治以降、多くの俳人たちが句に詠むのもうなずける・・・と勝手に思ったりもします。

車を走らせ眺めるのもいいのですが、出来れば高い所から見てみるのも粋なのではないかと思っていたところ、昭和初期に大沼に設置されていた展望塔の写真の記憶がよみがえった。今回は、その写真を紹介いたします。

さて、右の写真にらせん状の遊歩道が設置された鉄塔が写っているかと思えます。これが、大沼展望塔です。よくみると何人かの人が、大沼の景観を楽しんでいる様子が見て取れるかと思えますが、今その姿を見ることはできません。

展望塔は、昭和6年6月7日に、七飯村村長や道議会議員渡島支庁代理、軍川村村長など多くの参列者や新聞記者などが取材する中、落成式が行われ、公園内の傘山（カラカサ山）山頂に設置されたと、当時の函館新聞に掲載されています。傘山は現在、駐車場となっている「沼の家」のだんご屋の裏手まで広がっていた山で、今でも、その一部が残されています。まさに、大沼を一望できる場所に設置されたのですから、そこからの眺めは格別だったと想像できます。もし、今も残されていたのなら、どんな紅葉を見ることが出来たのか・・・。

しかし、絶景を約束していたはずの展望塔は、残念ながら昭和20年6月に第二次世界大戦による金属供出のために解体され、今となっては、写真でしか往時の様相を知ることが出来ません。また、写真に写っている湖面も、自家用車がだんだんと普及することによって、観光客のための駐車場が必要となり、その増設のために埋め立てられ、大部分がなくなってしまったのです。

願わくば、一度この展望塔から、秋の大沼を眺めてみたかった・・・。そう思うってしまう一枚の紹介でした。

2日

夜の博物館前期最後の講座は「土器は海を越えて」と題し、海を越えた土器や物から、航海技術があったこと、人々の移動があったことなどが推測できるという内容で、受講者の皆さんは興味深く聞き入っていました。受講者の皆さん、夜遅くまでお疲れ様でした。



土器は海を越えて

スライドのひとコマ

なお、後期講座は12月から開講致します。



一緒に挑戦!



よ〜くかき混ぜてね

12日

せかいにひとつだけのジャムつくりと題し、歴史館リンゴ見本園のたむらリンゴを使ってジャムつくりをしました。2班に分かれ同じ材料、同じ手順で作ったのですがそれぞれ味が違い、オリジナルのラベルを作成し、まさに「世界にひとつだけのジャム」が完成したのでした。



そばの実 出来てる?



スイカ収穫

26日

ジュニア探検クラブでは「収穫して食べる」と題して5月に植えたスイカとそばの実を収穫しました。

そばの実は残念ながら鳥に食べられてしまったようで少ししか収穫できませんでしたが、スイカは4玉収穫できました。

午後からは歴史館リンゴ見本園のリンゴを使ってリンゴドーナツ作りに挑戦! 午前中に収穫したスイカも皆で食べました。



リンゴドーナツ

特別展「ななえ果樹栽培史」開催中です。

七飯町に西洋リンゴが植栽されてから、140年。歴史館では、10/27まで特別展「ななえ果樹栽培史」を開催しています。

現在、リンゴの産地として有名な七飯町ですが、それまでの道のりや七飯町ゆかりの品種などを、貴重な資料とともに紹介しています。ぜひご覧下さい。



11月の予定

1	日	町民文化祭
2	月	
3	火	文化の日
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	館外展Close
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	勤労感謝の日
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	

11月の休館日はありません。

館外展開催中!

大沼国際交流プラザにて、「絵葉書にみる昔の大沼」を11/15まで開催中です。博物館実習生が頑張って展示しました。ご来町の折にはぜひご覧下さい。(A)



編集後記 ~tawagoto~

ついこの間まで、博物館実習生を2名受入れていた。不運にも事業が重なる時期だった為、「博物館って暇じゃないんだ」と痛感したことだろう。幸い、実習生の学習意欲と根性は素晴らしかったので、館外展を企画し展示してもらった。短い期間だったが、実習生のいなくなった事務所では、主を失ったイスがやけに寂しさを際立たせていた。実習生には、ここで学んだことを活かし、邁進してほしい。本当にご苦労様でした。(やまだひさし)

~ピチャリ~  
Pichari 第22号

平成21年10月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp